

会議の名称	令和8年度加東市地域密着型サービス運営委員会
開催日時	令和8年8月25日（火） 午後2時55分から午後3時55分まで
開催場所	加東市役所 5階 501会議室
委員長の氏名	小野 圭三
出席委員の氏名	井上 竜治 小野 圭三 森本 和幸 梶本 俊也 松本 邦夫 依藤 眞弓 服部 善典 田中 美穂
説明のため出席した者の職氏名	
出席した事務局職員の氏名及びその職名	健康福祉部長 菅野勇一 高齢介護課長 井澤彰子 主事 岩崎友哉 地域包括支援センター副課長 高濱さおり 係長 櫛原ひろみ
議題、会議結果、会議の経過及び資料名	<p>開 会</p> <p>1 委員長・副委員長の選任</p> <p>委員長は小野圭三委員、副委員長は服部善典委員に決定する。</p> <p>2 議題</p> <p>（1）地域密着型サービスの利用状況について</p> <p>事務局から説明資料1に基づき説明</p> <p>【質疑】</p> <p>委 員：資料の1ページの給付金額について、全体の19.4%ということなので、あくまでも地域密着型のサービスに対しての給付費という解釈でいいのか。また、令和7年度の地域密着型通所介護の2,852人は、4ページに記載の地域密着型通所介護事業所を利用した人の人数ということによろしいか。</p> <p>事務局：はいその通りです。地域密着型サービスについての給付実績、利用者数を記載しております。</p> <p>委 員：デイサービスこみなみが令和7年1月31日に休止、グループホームたきの苑が令和7年8月31日に廃止となっているが、事業者の都合なのでしょう。また、利用されていた方のその後の利用状況や、不都合な点はありませんでしたか。</p> <p>事務局：廃止理由については、人員確保等が原因と聞いております。</p>

利用されていた方については、廃止・休止するまでの間に他のサービスを案内させていただくなどの対応を行っています。

委員：人員不足で廃業する、それに対して市役所は利用者さんに対して事前に対応し大きなトラブルはなくスムーズに廃止されたという解釈でよろしいか。

事務局：はい。また、認知症対応型共同生活介護等については今の2ヶ所では不足していると考えておりますので継続して事業所を募集しています。

委員：対象者数が、減るどころか今後増えていくような状況になると思うので事業者の確保は必要だと思いますのでよろしくお願いします。

委員：高齢者の方が増えて在宅で介護を必要とされる方が増える上でやはり、事業所が減るというのは非常に大変なことだと思います。

その中で、経営不振もしくは人材不足を理由に、事業を止めて行かれるのですが、M&Aのような形であれば従業員、利用者の方もそのまま残り継続できるのですが、地域密着型の場合は、廃止届を出してから公募を出すという形で事業を一旦閉めるわけです。閉めると利用者さんもない、まっさらな状態で従業員を揃えて、始めないといけなくて、認知症型共同生活介護がもう1回できるというのも考えにくい。

この認知症型共同生活介護は、少人数を手厚い介護で認知症の方が暮らしていけるようなサービスで、特養やサ高住とは違います。

地域密着型サービスが事業を閉鎖するときは赤字になって辞めるということが起こっており、今回定期巡回こみなみうれし野さんが廃止されますが、完全に他のサービスで賄えているわけではありません。

同じ定期巡回でもこみなみうれし野とJAみのり加東ケアセンターではやり方が違う。だから定期巡回こみなみうれし野を使っていた人たちはこみなみうれし野のコンテンツの良さが自分たちに合うから使っていたが、それがなくなりJAみのり加東ケアセンターが同じ受け皿としてうまくいくとは限らない。

登録者数も、こみなみうれし野で17件いらっしやって、JAみのり加東ケアセンターが30人いらっしやった。定期巡回がなくなり、新しいところが手挙げしてできると思えない。だから定期巡回をやめるときには、次のところを見つけるようなサポートをしていかないとそもそも廃止してから公募ではもう誰もやらないと思うので、相談を受けて引き継ぐようなやり方に変えていかないと地域密着型サービスについては減ってしまうと思う。

まずは地域密着型サービスの数が減らないように行政が動いていく形を変えていただかないといけないように思います。

事務局：地域密着型サービスであったとしても、次の事業者さんが手を挙げているというのであれば、スムーズに引き継ぐことが可能です。認知症対応型共同生活介護の廃止の相談があった際には特別養護老人ホームなどに相談はさせていただきました。また、公募については廃止の方針が決まった段階で即時に公募いたしました。

休止中の事業所については、廃止の意向が明確にならない限りはどうしてもその加東市の

サービスの事業者数は計画で定めてありますので、先行し公募することができませんので、できるだけ早い対応を心がけて行っているところですが、手を挙げてくださる事業者さんが無いのは事実ですので協力いただけるようなところは探していかないといけないと考えております。

委員：認知症対応型通所介護に関しては単価が高いというところで全国的に減っているの
で理解ができますが、定期巡回は加東市で1つ減るということは影響が大きいですし、こみなみの小規模多機能があります但撤退してしまうのではないかと懸念してしまいます。
急に辞めるのではなく、もっと早く引き継ぐための猶予を持って相談するように言えないのでしょうか。

事務局：保険者への廃止届は1ヶ月前までに提出と決まっていますが、やはり引き継ぎ等の
こともありますので、できるだけ早いタイミングで周知していくように事業所さんにも説明
させていただきたいと思います。

委員：公募したとしても今後手上げる事業所は少ないのではないかと、そういった前提で
今後計画しなければ、募集したが応募がないという状態が続いてしまうのではないかと。
新規参入が難しいという前提で今後計画を立てた方がいいのではないかと。

事務局：そういった事も踏まえ、計画していきたいと思います。

(2) 地域密着型サービス事業の整備計画について

事務局から説明資料2に基づき説明

【質疑】

委員：特別養護老人ホームの待機者調査で、令和8年4月時点で要介護3以上の方が71名待機
しており、要介護3以上にこだわらなければ182名ということですが、今までの実績でいう
と、この71名の方は、何年後には入所できるのでしょうか。

事務局：緊急度が高い方は早く入所されることがありますが、その方が何年後に入られたか
はこちらの方で把握できておりません。

委員：特別養護老人ホームに入所中の方が亡くなられると空きができるが、加東市で亡く
なられた方の数は把握していますか。

事務局：亡くなられた数その施設入所中の方で亡くなられた数は現時点では把握しておりま
せん。空きが出る状況としては、亡くなられる場合や、入院されて退所される場合等ござい
ますのでデータとしてはございません。

委員：例えば申し込んでから、実際入られた期間の平均値を示してあげると、何らかの目
安になり家族の方もご本人も少し安心されるのではないかとと思うので、ご検討いただけれ
ばと思います。

委員：看護小規模多機能型居宅介護について、ニーズがあれば他市の事業所でも利用できる
か。

事務局：市町村間で協議し、利用が可能であれば他市の看護小規模多機能型居宅介護を指定
して利用してもらうことは可能です。

委員：地域密着型特別養護老人ホームフロイデ滝野は従来型多床室ですか。

事務局：ユニット型個室です。

委員：介護カスハラということで、ケアマネさんが誤解されて殺害された件です。事業所が対策をとらなければならないが、2人で訪問するような予定は組めないし、予算もとれないと思う。そのような場合に行政が積極的に支援する姿勢が重要になると思うが、地域密着型サービスの訪問事業で補助するなど何か対策されているのでしょうか。

事務局：県が指定している部分についての2人訪問については、今年度から加東市も一部助成していますが、地域密着型の訪問向けのサービスにおいては、県の方とも調整していますが現時点では考えてない状態です。ただそういった相談は確かにございますので市の方も、相談に乗りながら解決していきたいと思います。

委員：第9期の介護保険事業計画の中にも、若い世代に介護の魅力を伝えていこうとうたわれていまして、介護従事者が減らないようにしていただけたらと思います。

委員長：他に何かございませんでしょうか。質疑が出尽くしたようですので、これにて本日の議事が終了いたしました。ありがとうございました。

閉 会

令和8年10月22日

委員長

小野 毛三

署名人

依藤 真弓

署名人

裾本 俊也